

カナダ・マニトバ RETURN EXCHANGE

10月21日(日)～29日(月)



2009年に渡航したマニトバクラブから19名のアンバサダーをお迎えしました。実際リターンエクステンジで来られた方は少なかったのですが、初めてとは思えないくらいお互いに親しみを感じました。



初めてのED

中森恭子

不安のまま受け入れ当日を迎え、無我夢中のうちにexchangeの日々が過ぎて行きましたが、何のトラブルも無くambassadorの皆さんに喜んで帰って頂けました。ManitobaのEDのBarbaraさんも「奈良の皆さんはすばらしかった。ありがとう！」と何度も言っておられました。EDの見習いの私としては、ほんとにFFnaraの皆さんのご協力のお陰と心から感謝しています。FFに入会してまだ4年ですがEDをさせていただいて、貴重な経験が出来ました。パソコンも少しずつですが出来る事が増えてきました。

ManitobaのEDと毎日を過ごし、80歳ながら記録のためのメモ、ambassadorの管理、写真撮影にと、i-Padを使いこなしておられたのを目の当たりにして、私でもこれからまだ成長出来ると思いました。個人的にはデイホスト、ディナーホストの方々に助けられ、いつもよりおいしいお料理をいただき、ambassador達と共に私も楽しく過ごす事が出来ました。

今回は広島での世界大会もあり、FFの活動を続けていく事は世界平和に通じるものがあるのだと改めてexchangeの意義を認識したものです。



柿狩り

日本の里山の一日

到着の翌日は早速アンバサダー全員が滋井さん宅に集合！のどかな日本の里山で柿狩り、バーベキュー、ティーセレモニー、ビンゴゲーム、風呂敷の包み方のパフォーマンスを見て、夜はお弁当を食べ1日盛りだくさんの行事でエンジョイしました！



リックさんは虚無僧？



ティーセレモニー



80才を過ぎたおじいちゃんの運転で山を下りました。



お昼はバーベキュー

滞在スケジュール

10月21日(日)	出迎え(夜)
10月22日(月)	滋井宅
10月23日(火)	日本文化体験
10月24日(水)	奈良公園
10月25日(木)	京都観光
10月26日(金)	京都観光
10月27日(土)	さよならパーティ
10月28日(日)	自由行動



お茶目なクレアー

仮家 正剛

我が家にはクレアー、エステル、の夫妻が滞在しました。ホストのマサヨシ含めて3人とも1938年生まれ、エステル、マサヨシ、クレアーの順に誕生日が少しずつ異なるものの“三虎”の集まりでした。奥さんのエステルはリュウマチが持病とか指先が少し不自由の様子でしたが夫のクレアーはあの大きな体で、意外と手先が器用、毎朝の柿の皮むき当番であり、またノリコが台所仕事を始めるとすぐに手伝いに入り、キャベツのみじん切りなど器用なもの、またお茶目でもあり、手伝っている途中“あっ指を落とした”と、のたまった。



地元の良さを再発見

滋井 寛子

Bev, Brendaはこの片田舎の田園風景がお気に入り、到着翌日から散歩にでかけていました。フリーデイに地元の石仏めぐりでドライブとウォーキングをしました。狭い曲がりくねった道を運転中も何度か車を止め写真を撮ったり、ウォーキングで行きかう人に彼女達から積極的に「コンニチワ」と挨拶していたのでなんだかとてもいい気分でした。広大で平らな土地のカナダとあまりにも違う地形を数時間で堪能でき、しかものんびりしたスケジュールを彼女達も希望し、喜んでくれたので改めて地元の良さを発見しました。又滞在中の予定は公式行事以外はゲストの体調を見ながら大まかに決めておくのがベストだと思いました。また広島のカラパーティーで再会し、ホテルの自室まで案内してくれたり、大分でのホストを紹介してくれたり楽しい思い出の延長戦がありました。カナダでお世話になったエリザベスは15歳下の彼、Brendaは5歳下の彼がいるという。その話をする時のほにかんだ顔が忘れられない。



日本文化体験

初体験の着物、袴はアンバサダーたちに大好評。多少着付けに苦勞があったようですが、綺麗な写真に収まりました。



Naughty Boys?



Happy Birthday to Bernie

大西家に滞在したアンバサダーBernieさんは80才の誕生日を受入期間中に迎えられました。照れ屋の彼は初めの内は隠していたのですが、うっかり漏らしてしまい、結局滞在中にあちこちで4回も5回も誕生祝いをしてもらう事になり、大満足でした。

スピリチュアルな体験

濱田 延子

ダイアンとダイアナのホストをしました。仲良しの二人は姉妹の様でした。ダイアナの亡くなったご主人の弟夫婦も今回の交換に参加。二人のエピソードと言えば、ダイアンはチョウチョが好きなのですがその理由が亡くなったご主人の化身の様に感じるからだそうです。奈良でも奈良公園とけいはんな公園に行った時に黄色いチョウチョがダイアンの周りを飛んでるのを見て「ほら、私の傍にいつもチョウチョが飛んでくるの」と言って喜んでいました。実際 季節はずれのチョウチョがダイアンの傍に飛んでくるのを見て私もスピリチュアルな感覚を覚えました。心優しいダイアナは去年の11月にご主人を心臓麻痺で突然亡くされてから初めての旅行でした。私へのお土産に彼女が描いた素敵な花の絵を早速リビングルームの壁に飾ると喜んでくれました。今回はデイホストの方々にヘルプして頂いたので本当に助かりました。ディナーホストの手料理がどれも美味しいと大喜び。いろんな日本の家で、アンバサダー同士でのお喋りも出来たので良かったと思います。大阪ではそれぞれ上手にお買い物が出来て、ご満悦でした。



日本文化は大変すばらしい

青木 照子

Jeanさんは「着物は素晴らしい。また着てみたい！」とよほどお気に入りのようで、またよくお似合いです。「毎朝のモーニングは美味しかった。」と絶賛。



聞くと見るとは大違い

木村 洋子

大阪城で侍体験。いつも車の絵のプリントTシャツを着た陽気なリックと傍らで静かに微笑んでいるキャシー、そんな二人は最近FFに入会したばかり。日本も初めて。日本への渡航の話聞いたとき、夫人の反応は「NO」だったそうです。というのもこれまでに日本に来た事のあるEDのバーバラが「日本はテレビもないし、トイレも座る様式(昔の日本スタイル)・・・」と話したそうです。ところがウォシュレットをはじめ、彼らの想像をはるかに超えた生活スタイルにビックリ。毎日「すごい！よかった！」と絶賛。奈良クラブの皆さんのホスピタリティに大満足の様子でした。ユーモアがあり愉快的な性格でその場の雰囲気盛り上げるのが上手なリックは、奈良クラブの皆さんにも引っ張りだこで私達も嬉しかったです。



お箸を使わなくっちゃ

松本 朱美

アンバサダーたちが受けた事前のマニバでの日本文化講座はちょっと古い情報でした。目の前のナイフとフォークに目もくれず、お箸で海老フライをカットしている Myna さん。一生懸命日本の習慣に礼を尽くしている心遣いがなんとも印象的。

Kathyの気遣い

田中 暉英

Kathyが京都から帰宅するやいなや明日の大阪行きは止めたいと言い出した。翌朝は朝7時に家を出て、大阪見物。ミナミの繁華街散策、奈良へ戻ってフェアウェルパーティー。長い一日になる。さらにその翌日も朝7時に教会のミサに出ることになっていた。彼女はこれでは疲れると思ったに違いない。ところが妻に「あなたは行くの？」と尋ね、「いくよ」と答えたので彼女は「ミサを午後にして大阪に行く」と言ってくれた。ずっと家で留守番をしていた妻に気遣ってくれたようだった。



日本茶で通じたシーラさん



阪井 敏江

今回は男女の兄弟、二人とも科学者という珍しいペアの受け入れで、彼らは日本の生活にすぐに溶け込んでくれました。お兄さんのDONは早口で、それを見かねた妹SHEILAがゆっくり通訳してくれて聞き取れず、目と目を見合わせ笑うしかありませんでした。あと、DONがロータリークラブのバッジを付けているので聞くと「日本に行くならロータリークラブバッジを付けて行け、そしたら金持ちに見られる」と友達が言ったそうです。妹のSHEILAは日本茶が大好きで 朝ご飯にパン食を出しても飲み物は日本茶で、コーヒー、紅茶は1回も飲みませんでした。サンマルクでメニューにない日本茶を注文しました。彼女は「日本のレストランに日本茶は無いの？」と大変驚き、店員がわざわざ日本茶を特別に作って持ってくる一コマもありました。



家族と交流

合田サワ子

Labo partyの子供たちの英語劇やマニトバにホームステイした子のスピーチを見聞きしてもらい、又、英語の歌に合わせた歌やダンス、ビンゴゲーム、そしてたくさんの持ち寄りのごちそうを喜んでもらいました。孫の保育園の運動会では前列に座り込んで何枚も写真を撮り、家族との時間も持てとても楽しい交流でした。日本庭園で茅葺の屋根の下でお弁当を食べたのも楽しい思い出です。

京都観光



新しい試み

京都観光の初日は効率を考えてバスツアー。二日目は清水寺。拝観後の行程やタクシーの手配等を考慮して、2~3名のアンバサダーに一人の奈クラブの会員を単位としたグループに分けました。その結果、グループ全体の動きが柔軟になり、大好評でした。

京都観光は本来交換日程外のスケジュールですが、奈良クラブから毎回多数の会員がボランティアとして参加するので、大変喜ばれています。

奈良公園



天候に恵まれた秋の一日。大仏をゆっくり見上げ、二月堂に登って深呼吸、鹿と戯れながらクイーンアリスで美味しいランチ。午後は春日大社、奈良町へ。

デイホストの感想

同じ背丈?

谷口 美代子

大仏殿の中でBeverley にガイドをしていたとき、彼女がにこっと笑って言いました。「カナダ人はほとんどの人が背が高くって、小柄な私はいつも上を向いてしゃべらなくちゃならないんだけど、あなたは私と同じような背丈だから、あなたの顔がすぐ横にあって話しやすいわ。うれしい!」私も同じことを感じていたので思わず吹き出し、しばし腕をからませて親友気分です散策を楽しみました。

What's Noh?

端崎 市郎

東大寺鏡池案内時、Daineさんだっと思ったと思いますが、'What's that wooden structure under the water?'との質問がありました。良く見ると確かに、中の島の手前の水面下に何か木の物があります。こんな質問は初めてで、良く気が付いたと感心しました。幸いMr. 内田が同じグループにおられたので、聞くと確かあはは年に一度の能舞台の台との事で、そのように説明すると、今度は'What's Noh?'と聞かれたので'Japanese traditional theatre play'、どなたかが'マスクをつけて踊る'と付け加えられ、それも伝えると納得されたので、それ以上の事は'I don't know(Nohに近いようでも遠い)'と言って一件落着。奈良FF Clubのチームワークで難問をクリアした好例でした。

